

普及活動情勢報告（平成27年5月分）

中央東農業振興センター農業改良普及課

南国市3JA合同でシシトウの品質検査を実施（力強いシシトウ産地の育成）



検査員による厳しいチェックを受けました

5月11日に、南国市内3JA合同によるシシトウ出荷品の品質検査を行いました。当日は園芸連、JA営農指導員、出荷場担当、シシトウ部会役員13名が参加し、出荷場4か所を巡回しながら、各場でのパック詰めやシシトウの品揃え、鮮度などを確認しました。農業改良普及課は当日の運営や生産状況など情報提供をしました。参加者から「以前よりかなり改善されてきた」という声が聞かれました。

今後も、南国市シシトウの品質向上に向けた活動を支援していきます。

JA土佐香美山田支所青年部が小学校で水稻の出前授業



出題したクイズに元気よく答える子供達

5月18日、JA土佐香美土佐山田青年部が山田小学校の4年生83名を対象に水稻の出前授業を行いました。農業改良普及課からは、水稻栽培の歴史や水田が担っている役割、和食が世界遺産に登録されたことなどを説明し、日本の水田を守るためにお米をたくさん食べましょうと話しました。子どもからは、「日本ではいつ頃から栽培が始まったの?」、「元気に育てるコツを教えて」、などの質問が出されました。今後田植えや稲刈りなどの作業を実証し、水稻栽培の理解を深める予定です。

農業改良普及課は、これからも日本の農業の素晴らしさと大切さを子供たちに理解してもらう取り組みを支援していきます。

南海トラフ大地震に備えた農業用燃料タンク対策研修会の開催



香南市会場の様子

5月14、15日、香南市、香美市、南国市のハウス園芸農家を対象に、南海トラフ大震災に備えた農業用燃料タンク対策の研修会を開催し、73名が参加しました。高知大学農学部の高知教授から「営農を継続するためにも、対策を実施して被害を最小限に抑える必要がある」と提言されました。産地・流通支援課から補助事業について、全農こうちから流出防止機能付きタンクと防油堤について説明があり、対策の実施を呼びかけました。参加者からは、「自己負担はいくらになるのか」「揺れによってタンクのみならず加温機が転倒する可能性がある」という声が聞かれました。

農業改良普及課では、今後も関係機関と一緒に、引き続き啓発活動を行うとともに、防災プログラムやハザードマップの作成を行います。

10年後の中山間地域の担い手育成－広域集落活動組織の育成－



話し合いの様子

5月7日、西永野集落営農組合代表者、香美市とともに広域集落活動組織の取り組みについて話し合いました。中山間地域は、農家の高齢化や人口減少により、農地の維持や集落営農組織活動の継続が困難になることが予想されます。そこで農業改良普及課からは、既存の集落営農組合の広域化や、収益部門の強化・育成など、活動内容や必要性を提案しました。参加者からは、「人手が足りず、雇用するには収益が少ない」などの意見もありましたが、現状における問題点や今後の方向性を確認することができました。

農業改良普及課では、今後も広域集落活動組織の推進に向けて関係機関と協議を進めていきます。

中央東農青年農業士ブロック役員会開催



役員会の様子

5月8日新旧の役員10名参加のもと1回目の役員会を開催しました。会では平成27年度・青年農業士推薦者についてや年度行事の計画について協議し、名古屋での販売促進活動、研修会の開催など、主な活動計画が決められました。振興センターは販促での目的や資料について助言したり、研修会の内容について提案を行いました。

農業改良普及課は、今後活動が順調に開催、実行できるように支援していきます。

ユズの団地化で集落を維持する仕組みづくりを



農地の利用現況を確認しあう参加者

5月12日、物部町楮佐古集会所において、ユズの団地化に向けて集落の意向を地図上に落とし込む作業を実施しました。参加した集落協定の代表者は「地域内には耕作者がいない。子や孫が戻ってきて耕作することもない。このまま何もしなかったら耕作放棄地が広がる」と、ユズの団地化に期待を寄せていました。

農業改良普及課では、今後中間管理事業の協力を得ながら、地域を維持する仕組みについて合意形成を進めていきます。